

研究業績一覧

< 著書(単著) >

『ルソーの教育思想 - 利己的情念の問題をめぐって - 』風間書房, 1998年, iv + iv + 344 頁。

< 著書(共著) >

〔分担執筆〕「啓蒙主義の教育思想(2) 進歩と教育」57～69頁, 原聡介ほか編『近代教育思想を読みなおす』新曜社, 1999年。

〔分担執筆〕「教育を問う」1～20頁, 橋本太郎ほか編著『新教育原論』酒井書店, 2001年。

〔分担執筆〕「教育の効用と副作用 - 教育言説の批判的吟味のために - 」115～130頁, 朱浩東ほか編『国際化社会の教育課題と人間形成』三一書房, 2004年。

〔分担執筆〕「『理性的人間』の形成と感覚論哲学」169～188頁, 田中克佳編『「教育」を問う教育学』慶應義塾大学出版会, 2006年。

〔分担執筆〕「涙ながらに読む書簡 ルソー『エミールとソフィ』をめぐって」89～118頁, 桑瀬章二郎編『書簡を読む』春風社, 2009年。

< 雑誌等掲載論文 >

「ルソーの人間形成論 - 自然人から有徳人へ - 」『人文論選』第3号, 早稲田大学文学部, 1991年3月, 1～37頁。

「ルソーにおける《amour-propre》 - ルソー教育思想の構造理解のために - 」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第31号, 1991年3月, 151～158頁。

「ルソーの公民形成論の構造 - 利己的情念の排他性克服の論理とその意義 - 」『フランス教育学会紀要』第4号, 1992年9月, 17～28頁。

「ルソーにおける「祖国愛」の対外的排他性 - ルソーの公民形成論再考 - 」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』第37号, 1993年12月, 67～74頁。

「フランス啓蒙思想における利己的情念と社会秩序の創出 - サン＝ランベール『普遍のカテキズム』の情念指導論をてがかりに - 」『フランス教育学会紀要』第6号, 1994年9月, 29～40頁。

« Essai sur 《 l'amour-propre 》 chez Jean-Jacques Rousseau », *Etudes J.-J. Rousseau*, n°7, Musée J.-J. Rousseau, Montmorency, oct. 1995, pp.223-239.

「ルソーにおける利己的情念と「人間の本源の善性」論」『教育哲学研究』第73号, 教育哲学会, 1996年5月, 51～64頁。

「『エミール』における実例的挿話」『帝京大学文学部紀要・教育学』第22号, 1997年1月, 265～287頁。

「教育言説の『普遍性』と歴史性」『近代教育フォーラム』第8号，教育思想史学会，1999年9月，29～35頁。

「評判による情念の規制と社会秩序の創出」『立教大学教育学科研究年報』第43号，2000年3月，87～98頁。

« Le soi dans le regard des autres : un essai sur le système philosophique de Jean-Jacques Rousseau », in Serge Stinckwich (éd.), *Réflexivité et auto-référence dans les systèmes complexes*, acts des 12^{es} Journées de Rochebrune du 24 au 28 janvier 2005, Ecole Nationale Supérieure des Télécommunications, Paris, janvier 2005, pp. 233-241.

「18世紀フランスにおける「聾啞者」へのまなざしの思想史的意味」『フランス教育学会紀要』第18号，2006年9月，5～18頁。

« L'éducation est-elle un remède sans effets secondaires ? une critique des discours sur l'éducation au Japon », 『立教大学教育学科年報』第50号，2007年3月，37～46頁。

「テキストとコンテクスト - 思想史研究の新たな可能性 - 」『近代教育フォーラム』第16号，教育思想史学会，2007年9月，121～128頁。

« Délimiter la frontière entre animalité et humanité : le sens philosophique des discours sur la surdit  au si cle des Lumi res » 『立教大学教育学科年報』第51号，2008年3月，125-135頁。

「日本の近代化と『エミール』 - 三浦關造の抄訳を中心に - 」『思想』1027，岩波書店，2009年11月，194～207頁。

<その他>

〔コラム〕「間違う権利」『ぼんじゅうる』15，NHK学園，1990年，12頁。

〔コラム〕「大学院生の研究環境について - 日本学術振興会特別研究員の立場から - 」『IDE・現代の高等教育』No. 337（特集・大学院生），民主教育協会，1992年8月，44～47頁。

〔報告〕「モンモランシのルソー記念館のこと」『日仏教育学会会報』19，1992年9月，29～30頁。

〔書評〕「J.-L. ルセルクル『ルソーの世界 - あるいは近代の誕生 - 』小林浩訳，法政大学出版局，1993年」『日本18世紀学会年報』第9号，1994年5月，73～74頁。

〔コレクション紹介〕「ルソー関連文献コレクション（法政大学文学部教育学科蔵）」『フランス教育学会紀要』第7号，1995年9月，98～105頁。

〔書評〕「松本勤『ルソー - 自然の恩寵に恵まれなかった人 - 』新曜社，1995年」『日本18世紀学会年報』第11号，1996年7月，50～51頁。

〔書評〕「Yves Vargas, *Introduction à l'Emile de Jean-Jacques Rousseau*, PUF, 1995」『フランス教育学会紀要』第8号，1996年9月，93～94頁。

〔発表要旨〕「自我は憎むべきか - 17・18世紀フランスにおける「啓発された自己愛」と人間本性の復権 - 」『日本18世紀学会年報』第12号，1997年7月，5～8頁。

- [コレクション紹介]「フランス革命リサーチ・コレクション (早稲田大学中央図書館蔵)」
『フランス教育学会紀要』第9号, 1997年9月, 111~116頁 (小林亜子氏との共著)。
- [翻訳]サン＝ランベール「あらゆる国民の習俗の諸原理, または普遍的カテキズム(抄)」
『帝京大学文学部紀要・教育学』第23号, 1998年1月, 115~139頁。
- [書評]「安川哲夫『ジェントルマンと近代教育』勁草書房, 1995年」『日本18世紀学会年報』第13号, 1998年7月, 28~29頁。
- [図書紹介]「"Emile et l'éducation" (*Etudes J.-J. Rousseau*, n° 9, 1997)」『フランス教育学会紀要』第10号, 1998年9月, 99~104頁。
- [コラム]「バックス教徒の改心」『三田評論』 1019, 慶應義塾, 1999年12月, 19頁。
- [コラム]「『仮面』に隠された不安」『青淵』第610号, 渋沢青淵記念財団竜門社, 2000年1月, 43~45頁。
- [項目執筆]「アラン」「自由」「ブルデュー」「モンテーニュ」「良心」「ルソー」, 教育思想史学会編『教育思想事典』勁草書房, 2000年5月, 788頁。
- [書評]「Natalie-Barbara Robisco, *Jean-Jacques Rousseau et la Révolution française : une esthétique de la politique, 1792-1799*, H. Champion, 1998, 464 pp.」『日本18世紀学会年報』第15号, 2000年7月, 32~33頁。
- [図書紹介]「Guy Morel, Daniel Tual-Loizeau, *L'horreur pédagogique*, Ramsay, 1999」『フランス教育学会紀要』第12号, 2000年9月, 97~100頁。
- [書評]「沼田裕之・加藤守道編著『文化史としての教育思想史』」『教育哲学研究』第83号, 教育哲学会, 2001年5月, 125~126頁。
- [書評]「ハーラン・レイン編『聾の経験 - 18世紀における手話の「発見」 - 』(石村多門訳, 東京電気大学出版局, 2000年)」『フランス教育学会紀要』第13号, 2001年9月, 129~132頁。
- [コラム]「ルソー『経験は授業に先立つ』」『総合学習』12, 黎明書房, 2002年3月, 8頁。
- [書評]「山本周次著『ルソーの政治思想 - コスモロジーへの旅 - 』(ミネルヴァ書房, 2000年, viii + 315 + 4pp.)」『日本18世紀学会年報』第17号, 2002年6月, 40~41頁。
- [書評]「川合清隆著『ルソーの啓蒙哲学 - 自然・社会・神 - 』(名古屋大学出版会, 2002年, vii + 326 + 19 ページ)」『日本18世紀学会年報』第19号, 2004年6月, 32~33頁。
- [書評]「Christine Quarfood, *Condillac, la statue et l'enfant: philosophie et pédagogie au siècle des Lumières*, traduit du suédois par Yvette Johansson, L'Harmattan, 2002, 381pp.」『フランス教育学会紀要』第16号, 2004年9月, 113~124頁。
- [海外文献案内]「『ペスタロッチ年報』の創刊」『近代教育フォーラム』第13号, 教育思想史学会, 2004年9月, 317~319頁。
- [書評]「*Annales de la Société Jean-Jacques Rousseau*, n° 45 : *Jean-Jacques Rousseau et les arts visuels*, Actes du Colloque de Neuchâtel (20-22 septembre 2001), édités par Frédéric S. Eigeldinger, Droz, 2003, 677pp.」『日本18世紀学会年報』第20号, 2005年6月, 88~89頁。

〔書評〕「白水浩信著『ポリスとしての教育 - 教育的統治のアルケオロジー - 』（東京大学出版会，2004年）」『フランス教育学会紀要』第17号，2005年9月，89～94頁。

〔書評〕「Yves Vargas, *Les promenades matérialistes de Jean-Jacques Rousseau*, Pantin, Le temps des Cerises, 2005, 213pp.」『日本18世紀学会年報』第22号，2007年6月，111～112頁。

〔図書紹介〕「Florence Lotterie, *Progrès et perfectibilité : un dilemme des Lumières françaises (1755-1814)*, Oxford, Voltaire Foundation, SVEC, 2006 : 04.」『フランス教育学会紀要』第19号，2007年9月，131～134頁。

〔研究案内〕「ルソー研究入門」『フランス教育学会紀要』第19号，2007年9月，135～142頁。

〔書評〕「*Revue de Métaphysique et de Morale*, oct.-déc. 2007-n° 4 : « Penser l'éducation aujourd'hui », numéro dirigé par Denis Kambouchner, PUF.」『フランス教育学会紀要』第20号，2008年9月，119～122頁。

〔コラム〕「ルソーと思考実験としての『エミール』」フランス教育学会編『フランス教育の伝統と革新』大学教育出版，2009年，48頁。

〔座談会〕吉岡知哉，坂倉裕治，桑瀬章二郎，王寺賢太「ルソーの不在、ルソーの可能性」『思想』1027，岩波書店，2009年11月，8～44頁。

< 学会等口頭発表 >

「ルソーの公民形成論の基本構造」フランス教育学会第9回大会，1991年9月29日，於東京学芸大学。

「フランス啓蒙主義の情念指導論 - サン＝ランベールの『普遍的カテキズム』を中心に - 」フランス教育学会第11回大会，1993年9月26日，於東北大学。

「ルソーの「人間の自然的善性」論と利己的情念の問題」教育哲学会第37回大会，1994年10月15日，於お茶の水女子大学。

「自我は憎むべきか - 17・18世紀フランス思想における「啓蒙された自己愛」と人間本性の復権 - 」日本18世紀学会第18回大会，1996年6月22日，於慶應義塾大学。

「『エミール』における実例的挿話と読者」教育哲学会第39回大会，1996年10月5日，於東京学芸大学。

「フランス啓蒙思想における進歩と教育 - エルヴェシウスとドルバックを中心に - 」フランス教育学会第16回大会，1998年9月14日，於筑波大学。

「教育とは何か - 教育思想史研究の視点から - 」比較教育フォーラム「国際化社会の教育課題と人間形成」（中国在日学人教育研究会主催，日中教育研究交流会議協賛）2000年4月1日，於早稲田大学。

« Le soi dans le regard des autres : un essai sur le système philosophique de Jean-Jacques Rousseau », 12^{es} Journées de Rochebrune « Réflexivité et auto-référence dans les systèmes complexes », le 27 janvier 2005.

「18世紀フランスにおける「聾啞者」へのまなざしの思想史的意味」フランス教育学会第

23回大会，2005年9月18日，於長崎純心大学。

「日本の近代化と『エミール』 - 三浦関造訳『人生教育エミール』をめぐって - 」
シンポジウム「文学をこえて - ルソー研究の現在」2007年11月10日、於立教大学。

« La crise de l'école japonaise, une interprétation », Colloque international pluridisciplinaire dans le cadre du programme Chorus franco-japonais, « Modernités multiples : une mise en perspective France-Japon », La Maison du Japon, Paris, Cité universitaire, le 15 mars 2008.

< 講演 >

「自己愛と利己愛 - 『エミール』の構造を考える - 」人間教育の原点を探るセミナー（日本記録映画研究所主催），1991年5月27日，於日光プリンスホテル。

「フランス人の財産 - 『普遍性』という観念の歴史性 - 」第13回創価大学フランス語弁論大会記念基調講演，1994年12月11日，於創価大学。

「近代情念論とルソーの教育思想」フランス教育学会研究懇話会，2000年1月22日，於大正大学。

« L'éducation est-elle un remède sans effets secondaires ? une critique des discours sur l'éducation au Japon », conférence prononcée à l'Université ParisVII-Denis Diderot le 16 mars 2005 dans le cadre du « séminaire thématique » organisé par l'UFR LCAO.

« Délimiter la frontière entre animalité et humanité : le sens philosophique des discours sur la surdit  au si cle des Lumi res », conférence prononc e au Coll ge international de philosophie (Paris) le 5 mai 2006 dans le cadre du s minaire dirig e par Jean-Luc Guichet, « Animalit  et anthropologie, des Lumi res   nos jours ».

« L' volution de la famille japonaise et l' ducation », conf rence prononc e   l'Universit  Paris-Diderot le 25 mars 2009.